2016 年 3 月 2 日付 朝日新聞「卒業式」

中等教育学校 1期生巣立つ

県内初の「松本秀峰」、卒業式

小宮山校長（左）から卒業証書を受け取る卒業生たち＝松本市のまつもと市民芸術館

県内初の中等教育学校として2010年春に松本市に開校した松本秀峰中等教育学校の第1回卒業証書授与式が1日、まつもと市民芸術館であり、1期生の男女81人が6年間をともに過ごした学びやを巣立った。

同校は学校法人松商学園が「未来の日本や世界をリードする人材の育成」を建学の精神に掲げて開校。全生徒が6年間の中高一貫教育を受ける。週6日制で、2年で中学課程を終え、5年で高校課程まで修了し、最後の1年は受験対策に力を注ぐことなどが特徴だ。

小宮山淳校長は式辞で、「常に学校づくりの先頭に立ち、精力的に学習するとともに、学校イベントや生徒会活動などでも独創性を発揮し、それらを着実に発展させてくれた」と1期生の歩みをたたえた。その上で「進む道はそれぞれですが、いかなる学習環境にあっても心して自己研鑽に励んで欲しい」とエールを送った。

卒業生代表で答辞を述べたのは、信州大医学部への進学が決まった首根原愛さん(18)。先生たちに「学ぶことの楽しさを教えていただいた。受験対策の授業や講習もしてもらい、塾に通わず受験に挑むことができた」と感謝し、「最先端の医療を学び、患者さんに寄り添える医師になります」と決意を述べた。（佐藤孝之）